

児童虐待、家庭内暴力等の発生 防止について

四 竈 英 夫

〔質疑〕最近、幼児や児童の虐待、家庭内暴力等がしばしば報道されています。白石市では事件になるような問題が発生しなかったことは幸いですが、いつ起こるか予知できません。

平和に見える家庭でも、第三者には分からないことが起こっているかも知れません。

平成17年度の家庭相談室の虐待に関する相談が25件ありました。これは前年より5件多く、深刻な問題と言わなければなりません。

痛ましい事件が発生しないよう、日常の学校生活や保育園、幼稚園などにおいて、どのような配慮と対策を講じているかお尋ねします。

農地・水・環境保全向上対策に 対する本市の取り組みについて

山 谷 清

〔質疑〕農地・水・環境保全向上対策による資源保全向上活動要望を提出した活動団体はいくつあるのか伺いたい。また、本年7月14日の期限が過ぎての申し出はなかったのか、なお、この場合、市はどのように取り組むか伺いたい。

エコファーマーは、何人が

認定を受けているか、さらにエコファーマーの認定促進について市としてどう図っているのか伺いたい。また、認定農業者の担い手はどのくらいいるか伺いたい。

〔答弁〕児童虐待は、白石でも発生しており、相談件数は福祉事務所25件、教育委員会の青少年相談センターでは11件である。把握については、保育園・幼稚園等において、あざ等の暴力の痕跡を見つけた、あるいは日常と大変異なる生活態度があるというようなときに子供に聞いて事実を確認したケースが非常に多い。虐待に至る背景については、核家族化の傾向と関連が強いのではないかと思っている。

保護者自身の問題があり、子育ての不安、ストレス、あるいは育児知識の不足も大きく影響しており、家族間の不和、夫婦間の問題も要因としては考えられるのではないかと対応については問題が起きるから対処するより、最も重要なのは予防ではないか。子育ての悩み、不安を解消し、軽減するために、相談活動の充実に取り組んでいる。もう一つは、子育て支援講座を、社会教育課を中心にし

て取り組んでいるところである。市としては、南保育園にある地域子育て支援センターの相談業務を今月1日から始めたが、地区公民館とその他の公共施設に地域子育て支援サブセンターという看板を掲げた。これはもっと気軽に子育てについて相談してもらおうためである。ここでは相談に来てもらえば、福祉事務所、相談センター、子ども家庭課が中心になって対応していく方向で検討している。

〔答弁〕農地・水・環境保全向上対策採択要望書については、期限までに提出があったのは6カ所、9集落で、農用地面積は2百69ヘクタールになっている。期日後の要望はなかったが、今後要望があった場合の方策について、県と協議している。県で取りまとめた要望量調査の結果、各地区からの要望量が予想以上に多く、現時点では追加は受け付ける予定はないとのことであるが、白石

地区の要望面積内で調整するのであれば要望を受ける余地はあるが、その時点で相談に応じたいとのことである。エコファーマー認定については、現在、56の作物について認定を受けることができるが、市内で認定されている農業者は2名で、水稲については、まだ認定された農業者はいない。

この対策を契機に、地域内全体で、水稲であれば減農薬・減化学肥料による特別栽培米

である、こだわり米の栽培に取り組み、その中でエコファーマーの認定を受けようとする農業者がいる場合については、JAや県などの関係機関と連携しながら支援していく予定である。認定農業者の担い手は、本年8月末現在、個別経営体が50、組織経営体が4、計54経営体である。白石地域水田農業ビジョンの担い手リストに掲載されている農業者は、認定農業者を含めると88名である。